

「宣教旅行に出発する」

2024年03月01日

さて、アンティオキアでは、その教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、領主ヘロデの幼なじみマナエン、サウロなど、預言者や教師たちがいた。彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロを私のために選び出しなさい。私が前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」そこで、彼らは断食して祈り、二人の上に手を置いて出発させた。（使徒13：1～3）

シリアのアンティオキア教会には多くの信者が集まって来た。まず、バルナバである。彼は地中海のキプロス生まれで、持っていた畑を売って、使徒たちの足元において、原始エルサレム教会に加わっている。信者たちを迫害した者として恐れられたサウロが、回心して教会に加わろうとした時、バルナバの執成しによって、教会に受け入れられた。また、サウロはユダヤ教徒たちからの殺害計画を知って、故郷のタルソスに逃れ、そこで悶々と過ごしていた。バルナバが彼を探し出しアンティオキア教会に連れ戻し、二人は協力して宣教に当たっている。バルナバは「慰めの子」と言われ、温和で信仰の篤い人であった。彼はサウロを引き出し、成長させてくれた大恩人である。ニゲルと呼ばれたシメオン、ニゲルは「黒」という意味で、アフリカ出身の人であろう。キレネ人のルキオ、キレネはエジプトの北、地中海に面した港町である。キレネに関する記述がある。主イエスが十字架刑を受けるために、ピラトの官邸から刑場のゴルゴタまで十字架を背負わされていた時、体力がなく、負えなくなった。その時、マルコ福音書15章21節に「そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、畑から帰って来て通りかかったので、兵士たちはこの人を徴用し、イエスの十字架を担がせた」と書いている。キレネ人シモンは無理やり十字架を担がせられ、憤懣やるかたない思いであっただろう。この彼を紹介するに当たり、彼の二人の息子の名をあげている。二人の息子は初代教会において、著名なキリスト者であったということである。すると、無理に担がされた十字架を契機に、彼の家族はキリスト者になったということである。苦難を負わされて、キリスト信仰に導かれたのである。マナエン、彼は領主ヘロデの幼なじみであった。ヘロデはユダヤ教徒に嫌われていた教会を迫害していた王である。そのヘロデの幼なじみが主イエスの信者になっていた。更に、預言者や教師がいた。預言者とは旧約聖書の預言者ではなく、福音宣教者である。教師は福音を教え、教会を形成するために人々を導いた人たちである。アンティオキア教会は民族的にも多様で、様々な育ちの人たちが集まり、その働きはダイナミックであった。そしてサウロ、彼はパウロというギリシア名で、キリストの福音宣教に邁進する。主イエスに信従する熱心な「キリストに属する」、キリスト者が大勢集まっていた。

アンティオキア教会員が礼拝を献げ、断食をしていた。教会はユダヤ教の伝統、慣習を踏襲し、断食をしていた。すると聖霊が、「さあ、バルナバとサウロを私のために選び出しなさい。私が前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために」と告げた。教会の人々は断食して祈り、二人の上に手を置き、祝福、権能を与え、義務を負わせる按手をして、神が決めた仕事をさせるために、即ち、キリストの福音宣教のために出発させた。

使徒言行録は13章以降、パウロの宣教を中心に書かれている。パウロの三回に渡る宣教旅行がキリストの福音を世界に広げた。彼はキリスト教史における最大の宣教者である。アンティオキア教会は以後、異邦人宣教のベース教会となっていった。